

この街に
この人あり

ミツバチを育てることで 自然環境を守る



兼平 進さん

南荻窪の閑静な住宅地で、日本在来種のミツバチを飼育されている兼平 進(かねひら・すすむ)さんをお訪ねして、養蜂への思いや、地域の皆さんに伝えたいことなどを伺いました。

ミツバチを飼育している理由は？

自然界への懺悔とも言える気持ちです。今日まで私たちは、国土を破壊し汚染し、特に農業等でミツバチや昆虫類を殺傷し、受粉という行為で豊かな実りをもたらす自然界を、メチャクチャな状況にしてみました。

日本では、江戸時代までミツバチは野生のみで、明治時代に移動式養蜂が導入され、西洋ミツバチを輸入、農業生産を高めました。

最近世界中でミツバチの大量死が起こり、10年ほど前から日本ミツバチを巣箱で飼育する研究も進み、私も6年ほど前から保護・飼育・増殖活動をしています。



庭に置かれた巣箱

失敗談や、ご苦労などは？

ミツバチは暑さに弱く、巣箱で飼育するには、34度以上になると死んでしまいます。夜間も含め一定の温度管理が必要で、遮光やコーヒー袋で覆ったりしています。昨年は11箱まで増えた群も異常な暑さやダニ、農業等で今

春を迎えたのは、1群のみで、最悪でしたが、現在は蜂を増やすことに力を入れています。私たちは、依頼があれば屋根裏やお墓などに住みついた自然巣を保護し、飼育し、増やす活動をしています。活動資金のために少量の純粋蜂蜜も販売しています。

地域の皆さんに伝えたいことはありますか？

皆さまのお側にいる日本ミツバチを殺さないで、可愛がってください。コンクリートから土へ、塀から垣根に、緑豊かな街 荻窪にしましょう。日本ミツバチは、いじめなければ刺しません。花や樹木に極力農業を使わないでください。どうぞ、お子さま方、可愛いハチさんを見にお越しくください。



自宅前の「ミツバチの会」案内板

(問い合わせ先：日本在来種ミツバチの会会員)

090-2658-2027

e-mail/meneki-labo@jcom.home.ne.jp